

甲府一高あおぞら会 年報 2019

AOZORA

2020年2月16日発行(年1回発行) vol.5

〒252-0233 神奈川県相模原市中央区鹿沼台1-7-7

おぐちこどもクリニック内 甲府一高あおぞら会

ホームページ <http://www.ymkp.net/aozora/> フェイスブック



「感謝の集い」の報告と実行委員会の活動

甲府一高あおぞら会会長 露木和雄

2019年11月9日(土)あおぞら共和国に於いて「感謝の集い」を初めて開催しました。県内外から会員44名が参加し、完成したばかりの交流棟での総会の後、3号棟に移動しお弁当を食べながら懇親を深めました。午後からは管理人の青柳明美さんによる施設案内や希望者による近隣の藪内美術館訪問、また凶らずもその日開催された全国から小児科医などが集まった新生児講演会の聴講等盛り沢山のプログラムを楽しみました。

参加者の中には、小淵沢駅からあおぞら共和国まで歩いて参加したご夫婦や今回初めてあおぞら共和国を訪問し、その施設の充実ぶりに感激したとの感想を述べていただいた方もいらっしゃいました。当初、参加者がどれくらい集まるのか不安な気持ちもあった感謝の集いでしたが、天候にも恵まれ、多くの方が「来て良かった」と言っていたと実行委員一同安堵しているところです。なお、今回のお弁当などを含む開催経費ですが、甲府一高あおぞら会創立以来、同会の活動に対して種々の団体からの表彰があり、その際の副賞としての賞金を取り貯めていたものを充てたことをご報告させていただきます。

話は変わりますが、2019年はラグビーワールドカップで日本中が熱狂しました。今思うと、スタジアムで実際のプレーをするのは交代要員を含めて僅か20名程ですが、待機メンバー、給水要員、スクラム担当、戦略担当、医療担当などのサポート要員、ニワカ応援団も含めた観衆やテレビの前で絶叫しながら日本チームを応援した人、日本チームの戦いぶりに感動して国を越えてその健闘を讃えた海外からのサポーター等多種多様な人々が様々な状況でONE TEAMを掲げる日本チームを心から応援しました。

甲府一高あおぞら会もチームとしてとらえると17名余の実行委員が主なプレーヤーではありますが、現在400名近くを数える会員皆様も色々な思いや立場がありながらもONE TEAMとしてこの会をサポートしてくれています。このことに心から感謝申し上げます。そのサポートの結果として、皆様の善意である会費があおぞら共和国の運営費への支援となり、ここを訪れる難病や重い障がいを抱える方々とその家族が、そこで過ごす家族水入らずのひと時に幸せと喜びを感じています。利用者の累計も2019年末現在で7,000名を超えています。

皆様にはこの事をお心にとめ、今年こそ白州のあおぞら共和国を訪れ、年々充実していく施設をご覧頂き、甲斐駒ヶ岳を望むその場の空気と心豊かなひと時を直に体一杯感じていただければと思います。



交流棟入口で感謝の集い受付の準備をしました。お天気にも恵まれ気持ちいい日が始まりました。



管理人の青柳明美さんの案内で、敷地内を見学しました。



露木会長挨拶（交流棟総会会場）



テーブルを囲んでの昼食・懇親会（3号棟）



ご参加いただいた皆さんで記念写真（交流棟）

「感謝の集い」開催の経緯と当日の報告

2019年6月の実行委員会で、4年間の活動の中で一度も行っていなかった、会員を対象としたイベント、「甲府一高あおぞら会総会・交流会開催」を決定しました。あおぞら共和国に来たことがない方に、見学していただく機会として、また、完成した交流棟で文字通り会員相互の交流を、図っていただくことを第一の目標として、計画を立てました。

2019年2月に首都圏甲府会様から、2019年4月には難病のこども支援全国ネットワーク様から、あおぞら共和国の支援活動に対し賞状をいただきました。これらは会員の皆様からのご協力いただいた結果であることから、イベントの名称も「感謝の集いinあおぞら共和国」として進めることとしました。

「感謝の集いinあおぞら共和国」は以下の次第に従って、交流棟(小林登記念ホール-写真一番下)にて、行ないました。

11:00~10 総会 会長挨拶、2018年度の会計報告、実行委員紹介

11:10~45 活動紹介:みんなの夢プロジェクト⇒あおぞら共和国、甲府一高あおぞら会のあゆみ紹介

終了後、記念写真を撮影。3号棟へ会場を移し、昼食・懇親会を13:00まで開催しました。少し狭かったのですが、皆様にあおぞら共和国のロッジ利用を体験していただくことが出来て良かったと思っております。

13:00~15:00 あおぞら共和国での各イベントを自由選択参加形式で体験していただきました。メインはあおぞら共和国施設見学で、あおぞら共和国を管理している青柳明美さんに案内していただきました。既に見学済みの方には、近隣の施設見学(藪内美術館、サントリー白州醸造所、付近のミニウォーキング、お土産買い出しツアー等)を用意しました。また13:45から開かれた「あおぞら共和国」新生児講演会の聴講も仁志田様の取り計らいで聴講可能とさせていただきました。

13:00~終了時 3号棟を喫茶・休憩室としていただき、予定終了後、解散小淵沢駅までの送迎をいたしました。

「感謝の集い」に参加された方の感想 河西良幸さん

温かみのある木造建築の施設が八ヶ岳の麓の恵まれた場所で年々充実していく状況を、遠路高崎から参加して良く理解できました。私には、重度の身障者の従弟がおり、甲府一高OB(私の同級生、故人)のボランティアによる長い間のサポートを得て、身障者の社会活動に取り組みました(2018年67歳で逝去)。この甲府一高あおぞら会の取り組みの益々の発展を期待します。

感謝の集いの開催費用について

露木会長のがんばれ25周年記念での講演の謝礼、ロータリークラブからのあおぞら会活動への支援、卓話の謝礼、その他表彰の副賞、また活動支援としていただいたお金を充てています。皆様からいただいた会費からの支出はありません。

あおぞら共和国の現状とこれから

認定NPO法人難病のこども支援全国ネットワーク 専務理事 福島慎吾

“あおぞら共和国”のご利用者数は、2019年12月末時点の累計で延べ7,000名にのぼります。ここまで続けてこられたのも、甲府一高あおぞら会をはじめとする多くの皆様方の温かく力強いご支援のたまものです。心からの感謝を申し上げます。

2019年のトピックスは小林登記念ホール(交流棟)が竣工したことがあげられます。竣工式には秋篠宮妃殿下紀子様にもご出席賜りました。ホールは研修会や親睦会、会議にも利用できる多目的なもので、これまでに映画の上映会、医師による芸術集会、ミュージック患者団体のキャンプや甲府一高あおぞら会の総会にもご利用いただき、「小林登記念ホールが出来た事によって、みんなで集まって食事をしたり催し物もやりやすくなった」と、嬉しい感想もいただいております。2020年5月末にはロッジ5号棟が完成予定です。このロッジは、重症心身障害児者のご家族が利用しやすい設備にする計画です。完成すると最大65名の方が、一緒に利用することができます。併せて1年を通じて様々なイベントを開催して、地域の方々を含めて、より親しみやすく利用しやすい“あおぞら共和国”に育てていきたいと考えています。

これからも変わらぬご指導、ご支援をお願い申し上げます。



左 山梨県人会連合会の首都圏甲府会様より会長賞特別賞
右 NPO法人難病のこども支援全国ネットワーク様より感謝状



小林登記念ホール(交流棟)

あおぞら共和国で行われたイベント

ここでご紹介するイベントはほんの一部です。各種団体やグループが合宿だけでなく、イベントの会場として利用も増えました。それぞれ、参加者やボランティアを募集しています。主催者のホームページなどからご連絡願います。

◆ウインターキャンプ・RDD2019 2019.3.1~3 (難病ネット主催)

3月1~3日まで、“あおぞら共和国”では交流棟の竣工式をはじめ、ウインターキャンプ2019-がんばれ共和国 RDD“あおぞら共和国”2019、新しい熱気球の披露など、いくつものイベントが開催されました。



◆春のチャリティウォーク 2019.4.13 (難病ネット主催)

好天のなか90名以上が参加。日野春駅から“あおぞら共和国”までの約12kmを歩きました。初夏を思わせるような暖かい日差しの中、途中でも真盛りの桜を賞でながらのウォークでした。24時間テレビチャリティ委員会からの蓄電池設備増設や太陽光発電設備などの贈呈式を行いました。(2020年4月25日予定)(秋のチャリティウォーク2019(難病ネット主催)は台風のため中止となりました。)



◆あおぞら新緑まつり《こどもまつり》2019.4.20 (小口こどもクリニック主催)

相模原地区の障がいがある子どもの育成支援に関わる人たちが“おぐちこうぎと愉快的仲間達”という不思議なグループを結成し、子ども達と家族を招いて4月20日に“あおぞら新緑まつり”を開催しました。様々なイベント(バイオリンコンサート、プラネタリウム、ほうとう作り、ミニウォークなど)を企画し、ボランティアを含めて140人を超える人々が集まりました。交流棟ではプロのバイオリニストの方が演奏をしてくださいました。トトロの音楽が始まると障がいのある子ども、そして兄弟達も大喜びでメロディーに合わせて身体を揺すっていました。バイオリニストの後ろには、甲府一高あおぞら会が寄付した母子像が見守るように佇んでいました。午前午後の2回、往復5kmのミニコースを思い思いのペースで歩きながら、車いすの子ども達も交えて20数人が絶景を堪能しました。参加者達は広々とした庭のあちこちに設置したテーブルでパン、武川米を炊いた握り飯、皆で作ったほうとう、鯛飯(参加家族の一人で割烹料理屋のご主人が、5升の鯛飯を提供)を食べながら交流していました。2020年は10月31日にこどもハロウィンパーティを今回と同様にあおぞら共和国で開催します。皆様もぜひ参加し、子ども達と交流して下さい。(小口)



ほうとう作りのお手伝いをしました。



キッズボックスでおまごこと。



太陽の下で、ミニコンサートです。



交流棟の中にプラネタリウムが出現しました。



バイオリンコンサート、トトロの森などに合わせ体でリズムをとったりしました。



解散前に参加者、ボランティア全員で集合写真を撮りました。

◆NPO 法人心魂(こころだま)プロジェクトお泊りデリバフォウィーク 2019.6.22~26 (NPO 法人心魂プロジェクト主催)

NPO法人心魂は難病児や障がい児・きょうだい児とご家族のために、劇団四季や宝塚歌劇団出身俳優、プロのミュージシャン、ダンサーが一流のパフォーマンスを届けている団体です。草むらで一緒に音遊びをしたり、ステージタイム前後に絵本の読み聞かせなど、夜にはヨガをしました。2020年にも開催を予定しています。ぜひ、ご参加ください。



◆SSPE 青空の会 2019 キャンプ 2019.9.6～8 (SSPE 主催)



2019年も恒例のSSPE(亜急性硬化性全脳炎)青空の会のサマーキャンプを、あおぞら共和国で開催させていただきました。今回は大きなイベントを4つ企画して、共和国の外へは出かけずに、完成したばかりの交流棟を活用して、3日間ずっと共和国内で過ごしました。一つ目は、蕎麦打ち体験。『深大寺くり蕎麦の会』の有志の方にお越し、交流棟のホールで、数組に分かれて蕎麦打ちを教えてくださいました。いただいた蕎麦の、それはそれは美味しかったこと！二つ目は森のワークショップ。患

児と兄弟児たち子どもたちは、大人が蕎麦打ちをしている間に、森に散歩に出かけました。大型車いすで森に行くのはかなり大変でしたが、若いボランティアさんたちや母たちの力で何とか森の奥まで行くことが出来ました。木漏れ日や木の匂い、鳥の声を存分に楽しみました。交流棟に戻り、拾ってきた松ぼっくりなどを使って、作品を作りました。病院で留守番しているお兄ちゃんへのお土産も出来ました。3つ目は講演会。大変お忙しい先生方に無理をお願いしての講演会でしたが、在宅医療や、SSPEと麻疹流行・ワクチン接種、皮膚のケアの実際などについて学び、話し合いました。知らなかったことも多く、非常に勉強になりました。講演会の後半、兄弟児やドクターのお子さん達は近くの神宮川に川遊びに出かけ、『今回のキャンプで一番面白かったのは川遊び!』という感想文もありました。4つ目は、岡部信彦先生(医学博士。川崎市健康安全研究所所長。国立感染症研究所・元感染症情報センター長、現・名誉所員。)の特別講演。前日の勉強会に加えてさらに世界の麻疹の状況と排除に向けた課題が勉強できました。今回は交流棟のおかげでSSPE(Sing Smile Play&Express)の精神通りの新たなSSPEサマーキャンプスタルを生み出すことが出来ました。ありがとうございます。2020年も夏にキャンプを予定しています。子どもたちのお世話やイベントの準備などお手伝いを募集しています。(田伏)



◆「らくがきキッズ Party」2019.10.5 (難病ネット・ASrid・RDD 日本開催事務局の共催)



“あおぞら共和国”内のKid's Boxの外壁を彩る「お絵描きワークショップ」、中村キース・ヘリング美術館スタッフによるアートワークショップ、キットパスインストラクターによる「Kid's Boxの窓ガラスへのらくがきワークショップ」が行われました。地元の方による野菜・果物の直売コーナーも開設され、50名近い参加者は、思い思いに描くアートやお買い物など、楽しまれていました。また、はるばる台湾より、TFRD(台湾希少疾患基金)の代表2名が訪問され、ワークショップの様子を見学され、一緒に一日を過ごされました。

◆“日本の新生児医療の創始者達から次々世代へのメッセージ” 講演会 2019.11.9～10 (Dr. 仁志田主催)

“日本の新生児医療の創始者達(第一世代)から次々世代(40-50歳台)へのメッセージ”と銘打って講演会が交流棟で開催されました。全国から約50人の中堅新生児科医が集まり、熱心な討議がなされました。夜には星つむぎの村代表の高橋真理子さんによる星空観察会、翌朝は早朝ウォークでの絶景を楽しみました。



◆草刈りボランティア 2019.6.15・9.28～29 (難病ネット主催)

自然にやさしくのあおぞら共和国ですが、豊かな自然をそのままに放置するとあっという間に、廃屋のようになってしまい、草刈は欠かせません。2019年は6月と9月にボランティアの皆様で実施されました。甲府一高あおぞら会からも山梨在住の会員を中心に参加しております。2020年も初夏～初秋に数回予定されておりますので皆様お手伝いをよろしくお願いいたします。



左 6月15日 上 9月28日

あおぞら共和国のご利用者の声



団体でのご利用も増えてきましたが、中心はご家族でのご利用です。のべ7,000人の方にご利用いただき、難病ネットにはうれしい感想がたくさん寄せられています。その一部をご紹介します。

フレンドシップサマーキャンプ(8月-1泊2日)



毎年楽しみにしている、重症心身障がい児家族の会～フレンドシップ～のサマーキャンプをあおぞら共和国をお借りして行ないました。今回で4回目になります。今回は総勢25名の大所帯。猛暑の相模原を脱出し、白州の涼しく美味しい空気と水にホッと癒されました。また虫と鳥の声に子どもたちの声が合わさって、笑い声と笑顔が溢れる2日間になりました。虫を追いかけたり、水遊びをしたり、スイカ割りに花火。一緒に大きなお風呂に入って、寝泊まりして…、普段なかなかできないことを思いっきり時間いっぱい楽しみました! あおぞら共和国が、久しぶりの再会を喜び、子ども達の成長を感じる場、新しい出会いの場となって、私たちの交友を深めてくれています。また、毎年伺うたびに新しい棟が出来ているのにも驚かされます。今回は、素敵なホールが完成していました。いつも管理して温かく迎えてくださる青柳さんご夫妻、事務局の青柳さん、支えてくださっている皆様に心から感謝でいっぱいです! ありがとうございます!

あおぞら共和国のご利用方法

"あおぞら共和国"を利用できる方は、①難病や障がいのある子どもとその家族、②その関係者や支援者、③難病ネット会員(正会員・賛助会員・購読会員)です。予約は原則として先着順で決定し、利用希望開始日が属する月の3ヵ月前の1日10:00から、宿泊希望日の前々日(前々日が土日・祝日の場合は直近の営業日)の17:00までの受付です。メールかFAXでのお申し込みになります。詳しくは、難病ネットのホームページ <https://www.nanbyonet.or.jp/infomation/kyouwakoku.html>

"あおぞら共和国"の所在地 〒408-0316山梨県北杜市白州町鳥原字向林2913-134

電車でお越しの方:JR中央本線「小淵沢駅」よりタクシーで約10分 自動車でお越しの方:中央自動車道「小淵沢IC」より車で約15分

Q&A 皆様からの質問と回答



皆様からのご質問にお答えするコーナーをホームページと年報に設置することにしました。質問事項、ご提案が有りましたら、事務局までメールをお寄せください。ホームページに回答を掲載いたします。一部は年報に掲載いたします。

Q 甲府一高あおぞら会から、みんなのふるさと“夢プロジェクト”口座に振り込まれたお金はどの様に使われていますか?

A ロッジの建設費用は数百万~千万円単位の大口寄付を元に建設されましたが、その施設維持と宿泊経費はその後毎年発生します。例えば、施設宿泊経費は1人3,000円近くかかりますが現在NPO法人“難病ネット”では有料宿泊施設として運営は出来ません。甲府一高あおぞら会ではこのような「あおぞら共和国」維持・運営管理費の支援を継続的にこなすことを目標としております。

あおぞら共和国近くの『みどころ・あじどころ』 その4(毎号連載)

甲州台ヶ原 金精軒

あの「信玄餅」の元祖、チャリティウォークコースの真ん中、旧甲州街道の台ヶ原にある和菓子屋&お休み所です。生信玄餅、夏季限定水信玄餅、新銘菓、甲州金饅頭、おいしい和菓子がいっぱい。

—— 営業時間 9～18時 定休日 木曜日 ——

中央自動車道長坂ICから県道32号線に入り、白州方面へ約10Km(15分程)

北杜市白州町台ヶ原2211 TEL:0551-35-2246 <http://www.kinseiken.co.jp>



甲府一高あおぞら会の会計年度は4月から翌年3月までとなっておりますので、年報発行時には会計が確定しておりません。2019年12月31日現在の状況をご報告させていただきます。

1. 収入＝合計1,602,680円

- (1)会費＝1,014,000円 現在の会員数407名 (会費納入者は2019年12月末現在338名)
- (2)寄付金＝588,680円 同窓会、東京同窓会での寄付金(募金)、会員の皆様からの個別の寄付金

2. 支出＝合計69,051円

- (1)事務費＝69,051円 支払手数料、通信費、運送費、消耗品費

3. 支援金＝1,533,629円 1. 収入より2. 支出を差し引いた金額があおぞら共和国への支援金額となります。

但し「同窓会」「東京同窓会」「44会夏の会」合計3件、235,860円は既に“夢”プロジェクト宛に、個別に振込済です。

年度末のあおぞら共和国への支援総額は今後年度末までに見込まれる、年報の発行配布費用を差し引いた金額となります。

◆2019年度の寄付合計金額は1,435,000円程度になるものと予想しております。

◆寄付金は、あおぞら共和国の運営費、光熱費、寝具代等に充当されています。

◆今年度末の会計につきましては、確定次第、甲府一高あおぞら会のホームページにて発表させていただきます。

◆甲府一高あおぞら会発足以降の“夢”プロジェクトへの支援実績は、合計9,395,570円(2018年度末まで)です。今年度末には、累計約1,100万円となる見込みです。

年度別内訳	2015年度	814,607円
	2016年度	1,844,385円
	2017年度	4,936,903円 (内 3,000,000円は故相川公代様 御遺族からのご寄付)
	2018年度	1,799,675円
	2019年度	1,435,000円(見込み)
	累計	10,830,570円

会費納入(会員の更新)とお知り合いの勧誘(新規入会)及び、支援のお願い

発足から4年半が経過し、会員数も2019年12月末で407名となりました。年報AOZORAに同封させていただいております。ゆうちょ銀行の振込用紙にて、会費納入(会員の更新)をいただきますようよろしくお願いいたします。

会費納入先: ゆうちょ銀行 口座名: 甲府一高あおぞら会 口座番号 00110-9-323825

その他の振込方法は振込手数料自己負担となりますがホームページをご参照の上よろしくお願いいたします。

http://ymkp.net/aozora/kaihi_nonyu.html

お友達を誘ってください。甲府一高同窓生以外の方も入会していただけます。ご紹介いただいた方に、事務局より、本会の紹介、加入申し込み用紙、会費振込用紙等をお送りいたします。事務局への連絡先は巻末のお問い合わせ先を参照願います。

「あおぞら共和国」の支援は各種の方法で (http://ymkp.net/aozora/aozora_sien1.html)

1. あおぞら共和国の建設・運営母体である認定NPO法人「難病の子ども支援全国ネットワーク」の会員となつていただく。本会入会時にその旨お伝えくだされば、本会会費は免除としております。

2. 随時寄付を個人名で行うことを希望する方は

ゆうちょ銀行 加入者名:みんなのふるさと夢プロジェクト 口座番号: 00140-5-472963 に振り込んでください。

上記の支援は税法上の優遇処置の対象となり、確定申告時、税金控除が受けられます。

ヘレンハウス(世界初のこどもホスピス《イギリス》) 訪問記 あおぞら共和国 仁志田博司総支配人

仁志田さんは小児科の医師であり、あおぞら共和国の総支配人(難病ネット理事)です。2018年発行の「ヘレンハウス物語」の監訳者のお一人でもあります。実行委員ではありませんがコラムの寄稿をお願いしました。

9月24日に念願のヘレンハウスを後藤先生(難病ネット理事・ヘレンハウス物語監訳者)らと訪ねた。ヘレンの両親でヘレンハウス設立の中心となったウォースウィック夫妻(ジャクリン&リチャード)の車でヘレンハウスに向かった。ヘレンハウスの正面とその入り口がさりげない佇まいであったのが意外であったが、それは医療施設ではなく普通の家のようにというホスピスならではの役目からという説明であった。責任者のクラレ ペティントンさん(看護師)が、私たちを案内してくれ、1時間ほど施設のことや運営のことを説明してくれた。8床とこじんまりした規模で、ホスピスとしては2床だけで6床はレスパイト用だそうだ。しかし2床とはいえターミナルケアの児を管理する故、それなりのかなり高度な医療関係の機器、特にモニター類、などの設備が整えられていた。さらに入室している児や家族のアメニティを考慮した多くの配慮がなされており、とても採算が取れないであろう様々な道具立てがなされていた。建物の一部のように手入れされた庭もホスピスやレスパイト施設の重要な要素であると説明していた。総じて、「ヘレンハウス物語」に記載されていた内容と大きく違わなかったが、すでに建設から30年近く経っており取り巻く社会環境が大きく変化しているにも関わらず、その初期の理念が保たれていることが、素晴らしいと感じ、こどものホスピスがスタートしたばかりの我が国にとって、さらに我々のレスパイト施設「あおぞら共和国」にとっても、最も大切なことは「初心忘れるべからず」であることを肝に命じた。また、ターミナルケアは、どうしてもある程度の医療設備と医療チームが必要であり、我が国では小児病院などがその役目を果たしてくれているので、レスパイト施設としての私たちの「あおぞら共和国」の役割は重要であると再認識できた。



一番左 仁志田さん
3番目 後藤さん
4番目 クラレさん
5番目 ジャクリンさん

「ヘレンハウス物語」
購入申し込みは出版社
Webページより:
クリエイツかもがわ
<http://www.creates-k.co.jp/>



甲府一高あおぞら会 実行委員

2019年12月31日現在の甲府一高あおぞら会の実行委員は以下のメンバーです。
(年数は甲府一高卒業年、無印は昭和、Hは平成です。)

実行委員を広く募集しています。山梨在住の方、50歳未満の方大歓迎です。

会長 露木 和雄(45年) 副会長 軽石 泰孝(50年) 事務局 山本 秀彦(41年)
谷口 百合子(36年) 宇野 由美子(40年) 田伏 純子(44年) 雨宮 俊彦(45年)
小口 弘毅(45年) 飯沼 温子(45年) 小口 博(47年) 保延 義仁(50年) 斎木 裕子(50年)
高橋 久(51年) 青柳 均(51年) 岡 亜佐子(59年) 上松 裕之(H3年) 保坂 香子(H3年)



実行委員の皆さんと(中央が露木会長)

編集・発行・お問い合わせ

〒252-0233 神奈川県相模原市中央区鹿沼台1-7-7おぐちこどもクリニック内 甲府一高あおぞら会
FAX:042-786-4132 ホームページ:<http://www.ymkp.net/aozora/> 事務局mail: aozora@ymkp.net

ホームページとフェイスブック

入会のお申し込み以外にも、活動の様子、草刈りボランティアやイベントなどの日程や詳細は、ホームページとフェイスブックにてお知らせしています。チェックしていただき、活動にぜひご参加ください。



facebook →



←ホームページ